

## ダチョウの子育て

アニマルフォトグラファー  
トラベルライター

平 岩 雅 代

ダチョウはアフリカ大陸だけに生息する、陸上で最大の鳥です。空を飛ぶことはできませんが、時速 50km 以上の早さで、30 分以上走ることができるたくましい脚が自慢です。

東アフリカの草原では、車と併走するダチョウを時折見かけますが、短時間なら、時速 65km か 70km のスピードを出すことができます。

ダチョウのオスの羽毛が黒色、メスと幼鳥の羽毛が茶色がかったグレーだということは、あまり知られていません。

他の鳥に比べて、ダチョウは並はずれた長い首と脚を持っていますが、地面から頭までの高さは、メスがおよそ 2m、オスは 3m 近くです。そして体重はメスが約 100kg、オスは 130kg にも達します。

ダチョウはおもに木や草の根、草や葉、果実、種子などに加えてバッタなどの昆虫、小型のトカゲなども食べます。

オスのダチョウは複数のメスを従えて縄張りを守りますが、複数のメスの中でも、一羽だけが他のメスに対して優位に立ちます。

通常、一羽のメスは 4~5 個の卵を産みますが、その大きさは鶏卵のおよそ 20~25 個分で、直径 20cm という特大の卵です。殻も

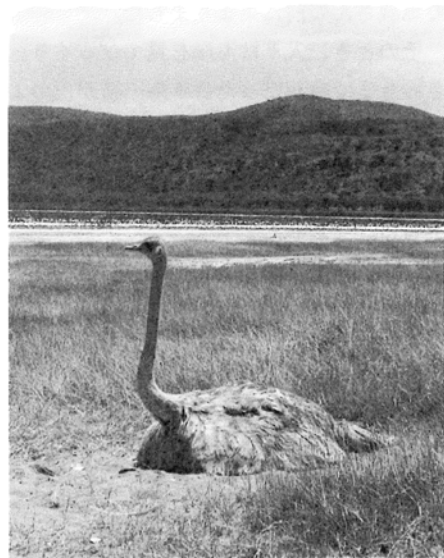


写真1 近づいても逃げないメスダチョウ

厚く、3 mm位はあります。

ケニアのナクル湖で出会ったメスのダチョウのエピソードですが、見通しの良い平原の砂地に、メスダチョウが一羽じっと座っていました。私達の乗った車がゆっくり近づいても、彼女はその場を離れようとしません。別に怪我をしている様子もないので、不思議に思いましたが、あまり刺激をしないように更に車を近づけますと、突然立ち上がりました。すると、彼女の足元には大きな卵が沢山ありました。数えてみますと、

その卵は全部で何んと 19 個。卵をくちばしで上手に寄せ集め、全てを上手に覆い隠していたのでした。

このように複数のメスが産んだ卵を一か所に集め、交代で暖めるのがダチョウの子育てです。そして卵からかえったヒナたちは集団保育で成長し、やがて独立していくのです。それにしてもたった一羽で 19 個もの卵を抱くことができるダチョウはやはり大きな鳥だと、改めて思いました。

余談ですが成長が早く、寒さにも強いダチョウは、食肉用や装飾用(羽毛のストールや、ハンドバッグ、革小物を作る)に、近年各地で飼育が盛んに行われています。

南アフリカでは観光用ダチョウ牧場が来訪者にダチョウのオムレツを食べさせたり、競馬ならぬ“競ダチョウ”のレースを見せたりしていますし、日本国内でもダチョウの飼育をしている所が少なからずあります。

食肉業者いわく「ダチョウの肉は低カロリー高蛋白質で、ダイエット向き」だそうで、遂に東京や横浜でダチョウ料理をメニュー

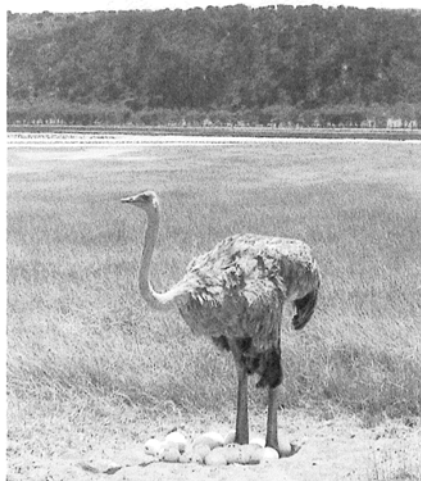


写真2 何んと19個の卵を抱いていた

に載せるレストランまで出現するほど……。

数年前 BSE(狂牛病)騒ぎで、牛肉の消費を控えたフランスでは、安全でヘルシーなダチョウの肉が飛ぶように売れ、シンガポールのダチョウ飼育業者は、笑いが止まらなかった、という話も聞きました。

高級品の代名詞だったオーストリッチのハンドバックや財布が安くなったのも、飼育のお陰でしょうか？

▶ 平岩道夫&雅代父娘写真展「アフリカ・ケニアとタンザニアの野生動物たち」開催

11月22日(土)から12月2日(火)までの連日、東京・市ヶ谷の「フォトスペース光陽」(JR市ヶ谷駅下車徒歩3分、江上料理学院前)で、平岩父娘写真展、が開催されます。平岩道夫&雅代ジャンル別動物写真集第5集『シマウマ物語』(ベストイマージュ刊・定価2,000円)の出版を記念して、シマウマを始めゾウ、ライオ

ン、チーター、ヒョウ、キリン、サイ、カバなど、平岩父娘撮影による大型カラーパネル200点を展示。また恒例の「平岩アフリカツアー」参加者40名が参加した「私のアフリカ傑作ミニ写真展、(1,200点)も同時併催されるほか、会期中の11月24日(祝)と30日(日)の両日午後3時30分からスライド上映会も実施される。入場無料。毎日午前10時から午後6時30分まで(但し最終日は午後5時で終了)。会場道順や新写真集の問合せは、電話03-3316-6234番、FAX03-3312-7558番へ。